

漁場改良造成事業の効果調査を

必ず行いましょう

——どこでも、だれでも出来る

方法を考えよう——

浅海増殖事業のうちでも、特に全道的に重要なコンブ礁の造成に費やす金額と、私たちがの労力は大変なものです。このために早くからその効果について水試やその他の研究機関で調査を行い、色々な報告書が出されております。また最近、急に事業量の伸びて来た魚礁についても各地で漁獲や利用状況の調査がはじまつております。しかしながらこれらの調査結果の中には、実際の造成漁場内からの取量がどれだけあつたのか、特に漁業の実態に則した結果が出ているものはほとんど見られません。このような調査には、各組合の作業方法、取りきめ方の違い、漁場の優劣など色々とはじむがしい問題がからみ、研究者や普及員、または単協職員だけの力による調査では不可能な場合が多いのです。

水産部では、色々な行政的配慮と、各浜のコンブ礁造成技術の向上の点から、先頃行なわれた支庁、水試の打合せ会議で、今年からは、水試で行う効果調査とは別に、各事業主体が必ず効果調査を実施し、造成漁場内からどれだけを生産があつたかを確認するように要望しております。このことについては、すでに各管内とも支庁から相談があつたことと思ひますが、水試としても皆さんがたにこの調査を必ず実施していただくようお願いいたします。

さて、今までの効果調査と言へば、ほとんどが、ブロックを引き上げて、着生数量、長さ、重さを測定し、これらを集積して、効果を判断しておつたわけですが、ここで要望されている内容は、このような調査ではありま

せん。漁業者の方々にお願ひしたいことは、皆さんに実際のサオヤネジリを使用して、投石、岩爆を行なつた場所からどれだけだけの数量のコンブを採つたかを報告していただければ良いので、特別の費用をかけて潜水したり、ブロックをあげたりする必要はないのです。

このために組合が中心になつて、今まで造成されたコンブ礁の場所を確かめ、その中に試験区を作つてもよろしいでしょう。また、採る人が多ければ、造成された場所全部を対象にしてもよろしいのです。ブロック漁場の中に少しぐらい天然コンブが生えていても、気にすることはありません。実際の漁業ではそんなことを考えながら採る人はいないでしょうし、天然礁も、ブロックの影響を何かの形で受けて間接的にはありますが、人工の漁場に変化しているはずはです。

造成した年度も去年の場所では今年はまだ一年コンブで採れませんから、少くとも二年前の場所をえらばなければなりません。毎年隣り合つた場所に新しいブロックを入れて漁場の拡大を計つている所では、一年ごとに漁場を分けることが困難な場合も多いでしょうが、そのような時は、すでに数年前のものであれば、無理に分ける必要は全くありません。とに角、どれだけ範囲からどれだけだけの数量

があつたかを知れば良いのです。その上、それらのコンブを製品にして品質まで分けられれば上出来です。

試験操業の日を、開禁直前一日に限るか、

または開禁後十日間にするか、一ヶ月間にするか、各人の採つた量をどうして組合が集計するか、それぞれの浜に事情があるでしょうから、皆さんで話し合つて決めていただけば

良いのです。具体的な問題で解決しにくい点があつたならば、支庁や水試に御相談下さい。

(増殖部)